

委員意見集約

基本事業番号	6	担当所属	教育委員会 学校教育課・ふれあい教育相談センター
基本事業名	学校教育の充実を図るための支援体制の整備 特別支援教育の充実と生徒指導の充実		
総合計画の基本目標	1 豊かな人間性をはぐくむまち		
総合計画の施策名	③学校教育の充実		
別紙4「最終評価イメージ案」の記入例を参考にご記入ください。			
＜最終評価＞		1～5点(期待する水準を5点満点として評価)	
必要性	…市民ニーズ、社会状況に照らしたうえで、事業目的に妥当性はあるか。		外部評点 4.4
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育は近年とみにその必要性が求められているもので、事業目的はほぼ妥当である。 ・事業目的は妥当であるといえる。なぜならば、特別支援教育と生徒指導の充実、学校教育の充実を実現していくためには、必要不可欠の課題であり、さらなる拡充を期待したい。 ・これらの事業目的は、昨今の社会状況から考えるに、市民のニーズは大いにあると思われる。いじめや不登校、また子供たちの基礎的な学力の向上のためこれからも取り組むべき課題である。 ・教育における多様なニーズにきめ細かく対応することは必要であるとともに、そのことは社会全体の安定や幸福の増進につながる。 ・大津市のいじめ事件以降、滋賀県をはじめ全国的に議論が高まっている重要課題である。障がい、不登校、いじめ等は生徒一人ひとり事情が違い、個別対応を重視している点は評価できる。 ・学校教育の問題は社会的に大切な課題であり、野洲市の取り組みは必要である。支援体制の整備については、まだまだ詰めて行く必要があるが、学校の中だけでなく、地域全体が子ども達に対して色々な形で支援していく、または支援できるまちづくりが今後の社会に必要なため、この事業がさらに充実し定着していくことが大切である。 ・教員とは別に中間支援的人員を配置することは、支援を受ける当該者だけではなく、学校全体の教育の質的向上にもつながる。 			
有効性	…期待される効果をあげているか。		外部評点 3.6
<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒をバックアップするシステムづくりが適正に行われていると見受けられる。 ・教育の効果は短期的に現れないことが多く、現時点での評価は困難であるので、その取り組みの方向性が有効であると期待できるかという観点で評価する。 ・一定レベルの成果を上げていると評価して良い。しかしながら、個人情報に扱う上から、やや不透明な側面を有していることは、今後、有事が生じないとも断言できず、デリケートな問題として取り扱わねばならない。 ・これらの事業の効果は、長いスパンで考える必要があると思われる。効果は徐々にあがっているのではない。数字で効果を示すのは、なかなかむづかしいかもしれない。子供たち一人ひとりが生き生きとして学校生活を送れるように一步一步取り組んでいく必要がある。 ・期待される効果が上げられているかは少し疑問であるが、事業の内容から即効性のある事業でも無いので今後の成果に期待するとともに、この事業の充実と継続が重要であると感じる。 また、この事業は一般市民に対して成果が見えにくい部分があり、それ故、今後の行政の進め方も難しく何年か先にやっと事業の成果が見えてくると思うので、現時点での評価は難しい。 ・状況に応じた対処療法的アプローチがなされている。同時に、本質に迫る根本療法的アプローチにも注力してほしい。いじめや不登校問題は解決に時間を要する。人間は一人ひとり尊い存在であり、一人では誰も生きられない。人を尊ぶ心を大切にして、友達同士の関係づくり、教員と生徒の関係づくりなどを支援する教育を小1から実施すべきと考える。 ・むしろ短期的で定量的な「効果」に捉われることによって、子ども自身の成長を促すという本来の目的から外れてしまうこともあることに留意されたい。【例】「ひらがなチェック」においても画一的に点数を上げることを目的化してはならない。学校復帰が必ずしも目的ではない。 			

合理性 …市(行政)が行う事業としての合理性があるか。	外部評点	4.1
<ul style="list-style-type: none"> ・本事業は学校教育の改善・充実を本質的、根本的に検討するテーマであり、市(行政)が行う事業に相応しい。 ・こうした事業は全般的なものとは言い難いが、日常的な取り組みと高い専門性が要求されるもので、公的支援が必要とされる。 ・合理性があるといえる。市政において、このような側面からの支援は学校教育の支援体制を拡充し、豊かな教育環境を整備する上で有意味といえる。 ・本事業の対象となる「特別支援教育」は、民間企業がビジネスとして供給するには様々な課題が多く、一方、そのサービス提供の効果は幅広く社会に還元されるべきものであり、市(行政)が行う事業として合理性が高い。 ・子供たちを取り巻く環境は、野洲市に限らず厳しい現実がある。市として限られた予算の中で、なんとか一歩一歩取り組む姿勢が、住民の子供たちに対する温かい目を広げていく基盤となるのではないか。市として取り組むべき大事な事業である。 ・学校と家庭と地域がともに理解し協力しながら進めて行かなければならない事業と思われる。それにはまず行政の取り組みが必要で、学校だけでは対応できない問題を地域(行政)が手助けし、また、子どもと家庭の問題に対しても、地域の人々が見守り続けられるまちづくりが大切である。 		
総合評価 * 事前照会では記載不要です。		1～3の3段階で評価
○所見	外部評点合計	12.1/15
Empty space for findings		
○評価指標 * 「外部評点」 1～5点 (期待する水準を5点満点として評価) * 「総合評価」 1～3の3段階で評価 3：拡充して継続 ……目標以上の効果が得られており、事業を拡充して進めることが適当である。 2：改善のうえで継続 ……事業の継続は必要だが、実施方法やコスト等を見直したうえで効率的な事業運営を行う必要がある。 1：大幅な見直し ……事業目的、実施方法、事業の妥当性等に課題があり、廃止を含めた事業の大幅な見直しが必要である。		

平成26年度 総合計画ロードマップ 評価シート

委員意見集約

基本事業番号	29	担当所属	健康福祉部 社会福祉課
基本事業名	災害時要援護者の把握と対象者情報の共有化		
総合計画の基本目標	2 人とひとが支え合う安心なまち		
総合計画の施策名	⑥防火・防災対策の強化		
別紙4「最終評価イメージ案」の記入例を参考にご記入ください。			
<最終評価>		1～5点(期待する水準を5点満点として評価)	
必要性	…市民ニーズ、社会状況に照らしたうえで、事業目的に妥当性はあるか。	外部評点	4.1
<ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年、歴史的な災害が頻繁に生じている。各自治会に自主防衛組織、体制が整い始めており、時期として適切である。一人ひとりが助け合い、分かち合い、支え合う共助のまちづくりの形成につながる。 ・高齢化社会に向けて、ニーズは高いと思われる。新しい公共の創出という観点からも望ましい方向の改革である。 ・災害の中でも、特に昨今の自然災害は、異常気象などの影響で、日本各地で起きており、その規模も年々大きくなる傾向にある。そのような状況下で災害弱者と呼ばれる高齢者、障がいを持った住民を災害時に速やかに避難させるためどう支援するべきか。この事業はその支援のための緊急の課題である。 ・神戸淡路大震災や東日本大震災の教訓を生かし、地域ぐるみでの災害時の支援体制を強化しようとする本取り組みは、極めて妥当であると評価できる。しかしながら、既存のシステムの活用や新たな支援体制の構築など、様々な課題が混在していることも否めない。 ・本事業の目的は妥当ではあるが、なお市民目線での調整が必要である。 ・阪神淡路大震災や東日本大震災のあと、地域住民のつながりが重要であると言われている事からも、この事業が必要であることは十分に理解できる。しかしながら要援護者の把握は、個人情報保護の観点から非常に難しい課題であるうえ、その対象者の情報を自治会長や民生委員が共有する事はさらに難しい課題である。十分に必要性のある事業(目標)だが、事業の目的には課題が多く、妥当性があるかは疑問である。 ・この事業目的の少し手前の段階、例えば自治会全体でおおまかに要援護者を把握するためのマップづくり等から進めていった方が良いと思われる。 			
有効性	…期待される効果をあげているか。	外部評点	3.1
<ul style="list-style-type: none"> ・阪神淡路大震災では情報の大切さを学んだ。災害時用要援護者は個人情報保護の問題はあるが、行政と各自治会の役員が情報を共有し、有事に対処すべきである。自主防災訓練などで事前に要援護者救助シミュレーション活動をすべきである。 ・一定レベルの成果をあげているといえる。その一方で、市民に対して広く認知されているかといえ、心もとない側面もある。このような類の課題を解決するためには、地道な取り組みが不可避であるといえる。 ・本事業は社会的ネットワークをどう構築するかにある。よく取り組んではいるものの、きめ細かな対応を要する非常時に有効でなくてはならないところに本事業の難しさがあるが、今後もその難しさ見極めて努めていただきたい。 ・特に最近は様々な災害が発生しており、行政も市民も意識を持つことが重要であり、早急に取り組む必要がある。そのためにはこの事業をどう広めるかをもっと考える必要がある。 ・初期投資の大きさからすると期待される効果が発揮されているとはいにくい。 ・独自に取り組んでいる15自治会との連携が今後の課題か。 ・各自治会の支援者対象者に対し、台帳に登録するための働きかけが、なかなか進んでいないのが現状である。参加している自治会の数が少ないことが課題である。 ・行政の中で個別の課がそれぞれに取り組んでいるが、行政全体としての共通感が見えないように思われる。 ・現時点では期待される効果は上げられていないと感じる。まず事業に参加している自治会が少ないこと、自治会長と民生委員との連携がうまくいっていないこと、さらに行政と民生委員との関係も何かちぐはぐしているように見受けられるためである。事業の内容が個人に及ぶため、非常に難しいことだが、参加されている自治会の取り組み事例や参加されていないが、独自で活動されている自治会の事例を基に、事業の内容を再検討したうえで、より多くの自治会が参加したくなる事業にして欲しい。 ・防災情報としてshiga-bousaiが役に立つ。例えば、台風や大雨の際、野洲川の水位が時々刻々、予想地を含め観測値がわかるので、この情報も共有すべきである。 			

合理性	…市(行政)が行う事業としての合理性があるか。	外部評点	3.9
<ul style="list-style-type: none"> ・防災は市民の命にかかわる問題であり、市全体として取り組むべき事業である。したがって、市の行う事業として適切である。 ・地域ぐるみでの災害時の支援体制を構築することは、今般の社会情勢からみても、大きな問題であることに相違ない。そのようなことを鑑みて、本取り組みは、市政として扱うに大きく値するものと評価できる。今後も、コツコツと地道な取り組みから、支援体制の「見える化」に取り組んでいただきたい。 ・市(行政)が制度や情報基盤を提供し、市民がそれを活用することは、大きな財政負担を負うことなく高いサービスを供給できるという意味で、合理的な取組である。 ・本事業は地域社会の保全から見て根源的なもので、事業としては粘り強く取り組む必要がある。 ・市として取り組む大切な事業であると思う。災害は待つてはくれない、この事業がなかなか進まないその問題はどこにあるのかを見極め、解決策を探っていく必要がある。また名簿の登録は最初の一步なので、そのあとの支援の仕方等取り組みが次の大事な課題となる。今後も市として自治会に周知、広報等積極的な働きかけを希望する。 ・この事業については、昔ながらの自治会と新興の自治会では評価が分かれるところではある。昔ながら住民のつながりのある自治会では、行政の事業として行うまでもなく、「向こう三軒両隣り」のごとく、隣り近所の人が要援護者がある程度把握していると思われる。しかし新興の自治会では行政の事業として行わなければ、なかなか要援護者を把握する事は困難と思われる。今後さらに新興住宅が増えるであろう野洲市においては、行政が行うべき事業と思われるが、どのあたりまで個人情報把握について踏み込んで行くかが、この事業のカギである。 			
総合評価 * 事前照会では記載不要です。		1～3の3段階で評価	
○所見	外部評点合計	11.1/15	外部総合評価
<p>○評価指標</p> <p>* 「外部評点」 1～5点 (期待する水準を5点満点として評価)</p> <p>* 「総合評価」 1～3の3段階で評価</p> <p>3：拡充して継続 ……目標以上の効果が得られており、事業を拡充して進めることが適当である。</p> <p>2：改善のうえで継続 ……事業の継続は必要だが、実施方法やコスト等を見直したうえで効率的な事業運営を行う必要がある。</p> <p>1：大幅な見直し ……事業目的、実施方法、事業の妥当性等に課題があり、廃止を含めた事業の大幅な見直しが必要である。</p>			

平成26年度 総合計画ロードマップ 評価シート

委員意見集約

基本事業番号	36	担当所属	環境経済部 商工観光課
基本事業名	商工業振興指針具現化事業		
総合計画の基本目標	3 地域を支える活力を生むまち		
総合計画の施策名	①商工業の振興		
別紙4「最終評価イメージ案」の記入例を参考にご記入ください。			
＜最終評価＞		1～5点(期待する水準を5点満点として評価)	
必要性	…市民ニーズ、社会状況に照らしたうえで、事業目的に妥当性はあるか。	外部評点	3.9
<ul style="list-style-type: none"> ・ A：地域資源でおもてなし発信、B：自然の魅力の活用、C：ビジネスチャンスの発掘、以上は野洲市活性化としての事業目的に合致し、評価できる。 ・ 野洲市の商工業がますます発展するためには、関係機関などと連携しながら市としてできることを進めていくことは重要である。 ・ 地域の商工業の発展なくして、市の発展や活性化はないものと思われるため、事業の必要性は高い。特に財政難と言われている昨今は商工業の活性化により、他の地域から人を呼び寄せ、お金を落としてもらうことは重要である。また、今まで行われていた事業は単発や短期間のものが多く、継続的に行われているものが少ないと感じる。具現化事業では、継続的に行われることを期待しつつ、時代のニーズに合った事業を進めてもらいたい。魅力的な事業は人を呼び寄せ、地域を活性化し、市の発展につながる。 ・ 地域経済の振興の観点からの事業計画は理解できるが、具体的な企画のあり方に一考の余地がある。 ・ 一定レベルの妥当性は認めることができるものの、課題の山積する印象を払拭できない。今般の社会状況からすれば、自立的な商工業振興を目指すべきであるが、本事業の支援体制はやや中途半端な印象を抱く。 ・ 商工業振興という意味では市民ニーズも一般的にはある。ただし、市民や事業者間の連携を促す仕組みづくりにより一層注力し、そうしたコーディネート機能をもった組織や専門職を育てることにより、当初の目的である、事業の継続性も生み出すことができるのではないかと。 			
有効性	…期待される効果をあげているか。	外部評点	3.1
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「野洲まちバル」はおもてなし発信として、それなりの成果はあった。しかし、継続できなかったことが残念。SWOT分析はより戦略的に行う必要がある。 ・ 実際の取り組み自体の努力は理解できる。効果的な事業もあるものの、一過性的な部面が見られる。 ・ 各事業の連携が無く、相乗効果が発揮されていないように思われる。事業継承に課題があるように思われる。 ・ 期待される成果を残してきている側面もあるが、それ以降、取り組みが停滞気味であることも否めない。 ・ 市でアイデアを絞り、各事業やイベントを立ち上げて単発で終わり、あとがなかなか続いていかないように思う。効果としては、半分でまだまだこれからではないかと思われる。 ・ 効果について十分に定量的に成果が図られていないようである。 ・ 現時点では十分な効果が得られているとは言い難い。特に街の商業に今ひとつ明るさが無いように思われる。バル等の事業も行政が旗揚げしたにも関わらず、その後商工会の方で継続されなかったのは非常に残念だ。一方で地域の方々から発信している事業もあり、このあたりのサポートについても行政で行って欲しい。商工業も継続する事により、成果が見えてくる部分も多く、今後に期待する。 			

合理性 …市(行政)が行う事業としての合理性があるか。	外部評点	3.3
------------------------------------	-------------	------------

- ・きっかけづくりとしては市(行政)が行う事業としての合理性は一定程度ある。ただし、事業が行政の直接的支援を離れても継続することが目標の一つであるとすれば、そのための強力な仕掛けをあらかじめ用意しておく必要があると思われる。
- ・自立的な商工業のあり方を議論する余地がある。市政として支援するにしても、些か限界を感じる。もっと拡張的な取り組みを期待したい。他市の象徴的な取り組みを野洲市での可能性の拡充とするなど、取り組むべき課題は山積しているようにも感じられる。何より、継続的な支援体制を維持すべきと考える。
- ・地域に根差すような継続的な取り組みになっているか、また野洲の特性が広く内外に届くような事業になっているか、検討の余地がある。
- ・イベントの後、どうしたら各関係機関、団体、店舗が事業を継続できるのか、市として取組みを具体的に示せるとよい。情報の収集や、情報の発信、楽しんでイベントを実行する組織作りがこれからの課題になるかと思われる。
- ・行政はきっかけづくりと事業の支援にとどめ、最終的には地域の商店や会社が継続して進める事業である。いつまでも行政が主導権で進める事業ではない。この商工業の振興事業自体の考えは良いと思うが、駅前での病院建設の検討が進んでいることは市の商業発展の点から疑問であり、行政全体の考えとの結びつきが見えてこない。
- ・野洲市の強みは自然、歴史、文化に恵まれたところにあり、これを活かすべき。市の事業として前述のA、B、Cの事業目的を達成するために、希望が丘の西門付近に、自然・健康ランド(温泉、レストラン、特産物売場など)の建設を希望したい。毎年100万人近い希望が丘の入場者が、スポーツ、遊戯、登山、イベント参加などの前後に立ち寄る場所として、ニーズ的にも商業的にも価値が高い。温泉に浸かり、ピワます、近江牛、地場野菜などを味わい、心身とも自然と健康を楽しめる。

総合評価 * 事前照会では記載不要です。 **1～3の3段階で評価**

○所見	外部評点合計	10.3/15	外部総合評価

○評価指標

- * 「外部評点」 1～5点 (期待する水準を5点満点として評価)
- * 「総合評価」 1～3の3段階で評価
 - 3 : 拡充して継続 ……目標以上の効果が得られており、事業を拡充して進めることが適当である。
 - 2 : 改善のうえで継続 ……事業の継続は必要だが、実施方法やコスト等を見直したうえで効率的な事業運営を行う必要がある。
 - 1 : 大幅な見直し ……事業目的、実施方法、事業の妥当性等に課題があり、廃止を含めた事業の大幅な見直しが必要である。